わんりぃ

276号
2022/9

日中文化交流市民サークル‘わんりぃ’
町田市三輪緑山 2-18-19　寺西方
〒195-0055　☎：044-986-4195
http://wanli-san.com/
E メール:t_taizan@yahoo.co.jp

康定情歌の街：険しい峡谷に開けた街「康定」。古い旅行記などでは「打箭炉(ターチェンルー)」と紹介されていた交通の要衝です。朝早く街はずれの川沿いに市が立ち、近在から野菜を持ち寄って店開き。野菜売りのおじさんは、店番をしながら腹を満たしていました。　（四川省康定　2019 年 7 月　撮影：佐々木健之）

‘わんりぃ’ 2022 年 9 月号の目次は 20 ページにあります

「寺子屋・四字成語」雑感-55

杀(shā)・鷄(jī)・取(qǔ)・卵(luǎn)

中国で見つけた“有名小学校入学準備の為の”絵本から

文と訳・有為楠(ういくす)君代

日本では「鶏を殺して卵を取る」と言い、イソップ物語の中の話として知られています。中国でもこの四字成語はイソップのお話として紹介されていますが、同時に明末の農民蜂起指導者李自成が説話の中で使ったことも紹介されています。

・➢・➢・➢・➢・➢

昔、ある所に貧しい老夫婦が住んでいました。ある日、貧しい夫が井戸の近くで打ち水をしていると、疲れた様子の老人が通りかかり、彼に井戸の水を飲ませて欲しいと頼みました。夫は快く、器に冷たい水を満たして手渡しながら、自分たちの貧しい生活の状況を話しました。話を聞いた老人は、美味しい水のお礼にと、金の卵を産む鶏を一羽彼に与えて、去って行きました。

挿絵:満柏画伯

夫は喜んで鶏を抱えて家に帰りました。翌朝早く、鶏は金の卵を一個生みました。それからは毎日一個ずつ金の卵を産み、貧しい夫婦は徐々に豊かになっていきましたが、同時にどんどん心が貧しくなっていきました。

ある日妻が言いました。「金の卵が一日一個ずつなんて、時間がかかり過ぎですよ。いっそのこと鶏を殺してお腹の中の金を取り出しましょうよ」愚かな夫は妻の言葉に従って鶏を殺してしまいました。腹を割いてみましたが中に金などはありませんでした。以前に産んでもらった金の卵を使い果たし、夫婦はまた元の貧乏に戻ってしまいました。

・➢・➢・➢・➢・➢

言葉の意味：目先の利益をむさぼり、先のことを考えないこと。

使い方：卵がもっと欲しいかと、鶏を殺してしまうなんて、何と愚かなことをしたものだ。

・➢・➢・➢・➢・➢

これは言わずと知れた「イソップ寓話」からのお話です。欧米では金の卵を産むのは「ガチョウ」ですが、さすがに中国では「鶏」ですね。また愚かな夫婦が宝物を手に入れる過程は少しずつ違いますが、結果・教訓は同じです。「イソップ寓話」は世界中に広く受け入れられ、人々の共感を得ながら、各地の状況に合わせたお話に変えられることもあります。

イソップは、紀元前 6 世紀頃ギリシャの奴隷でしたが、寓話を話す才能を認められて自由の身となり、ギリシャの各地を巡ってお話を披露したと伝えられています。現在伝わる「イソップ寓話」は後世の人のお話が加わったりしているので、全部が全部彼のお話ではないのだそうですが、彼のお話に触発されて生まれた寓話には違いありません。

紀元前 6 世紀といえば、中国では孔子の生きた時代ですね。周王朝が弱体化してから、各地に国が興り、諸侯が自国を強力にしたいと考える中、諸子百家と言われる多くの思想家が活躍し、各国の領主に自説を理解してもらうのに、いろいろなたとえ話をしました。これらは皆、「中国版イソップ寓話」といえるでしょう。

思想やお話の伝達に文字は欠かせませんが、エジプトや中国など古代王朝の文字は、その使用が神官・占師や王の特権でした。しかし時代が進んで紀元前 6 世紀以降、各文明で期せずして文字の整備、簡略化が進み大衆化されたことで記録が充実し、後世の人々が当時の様子を知ることが出来るようになったのです。エジプトの簡素化文字デモティックは途絶えましたが、中国の漢字は改良を加えて、現代まで継続して使用されています。考えて見れば、これはすごいことですね。

日译诗词［漢詩の日本語訳］（25）

李白の詩『蘇臺覧古』

桜美林大学名誉教授　植田渥雄

青年時代、25 歳で故郷を離れて長江を下った李白は、呉越（江蘇・浙江）の地を経由して都に上り、玄宗皇帝の厚い庇護のもとに宮廷詩人として奔放な生活を送りますが、側近の讒言に遭い、僅か一年余りで都長安を追われ、各地を放浪しながら、その後も何度か呉越の地を訪れています。

今回取り上げる詩はその頃の作と推定されます。

sū tái lǎn gǔ
苏台览古

lǐ bái
李白

jiù yuàn huāng tái yáng liǔ xīn
旧 苑 荒 台 杨 柳 新

líng gē qīng chàng bú shèng chūn
菱 歌 清 唱 不 胜 春

zhǐ jīn wéi yǒu xī jiāng yuè
只 今 惟 有 西 江 月

céng zhào wú wáng gōng lǐ rén
曾 照 吴 王 宫 里 人

＊苏台＝呉の国都（今の蘇州）西南の郊外にある姑蘇山の高台。春秋時代、呉王闔閭・夫差二代の離宮のあった所。越王勾践に敗れて父親の闔閭を失った夫差が復讐を誓ったことは「臥薪嘗胆」の故事として後世に広く伝えられている。

＊览古＝史跡を訪れて過去の栄華の跡を偲ぶ。

＊旧苑荒台＝宮殿跡の荒れ果てた様。

＊菱歌＝菱摘みの歌。茶摘み歌のような一種の労働歌。

＊清唱＝清らかな歌声。

＊不胜春＝少女たちの清澄な歌声が青春の感傷をそそる。

＊西江＝蘇台の西側を流れる川。川の名は不明。

＊曾＝かつて。往時。

＊吴王宫里人＝往時、呉王の宮殿を飾った美女たち。姑蘇台の離宮には越王から奪った千人を超す美女たちが集められ、呉王は夜毎酒宴に打ち興じていたという。ここでは主に呉王を篭絡するために越から送り込まれた絶世の美女で〈中国四大美人〉の一人、西施を暗に指しているといわれる。この姦計に嵌って、夫差は栄華に酔って治世を怠り、その結果、越に滅ぼされたと伝えられる。但し西施については荒唐無稽な逸話も多い反面、『史記』や『左伝』に記載がなく、実在の人か否かについては不明。

〔訓読〕

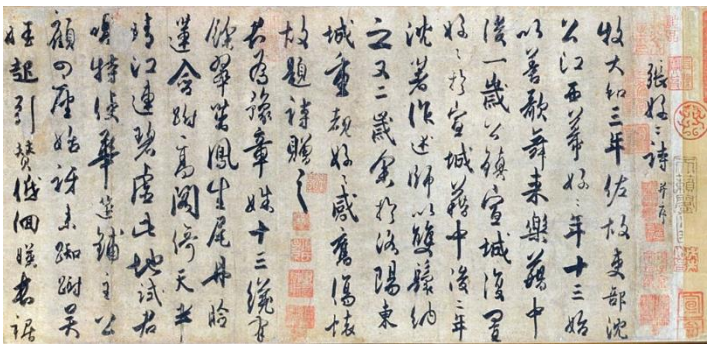
旧苑荒台楊柳新たなり
菱歌清唱春に勝えず
只だ今惟だ西江の月有りて
曾て照らす呉王宮裏の人

時は春、荒れ果てた宮殿跡には柳が新たに芽を吹いている。どこからともなく伝わってくる菱摘みの乙女たちの清らかな歌声が青春の感傷を伝えて止まない。

今宵はただ夜空に懸る月だけが往時そのままに西方の川面に影を落としているが、この月もかつては王宮の美女たちの艶やかな姿を照らし出していたことであろうに。

〔和訳〕

荒れし蘇台に　芽を吹く柳
菱摘む娘らの　歌声愛し
今宵川面に　見る月影は
曾て呉宮の人　照らせしや



唯一現存する李白の真筆？・部分（北京故宮博物院所

杜牧の『遣怀』（懐を遣る）

報告：花岡風子

今日のお題は杜牧の『遣怀』（懐を遣る）という作品でした。杜牧は晩唐を代表する詩人で、『江南の春』が有名なため、日本でもお馴染みです。『唐詩選』に一首も載っていないのが不思議ですが、『唐詩三百首』では 10 首の詩が収められています。中国でも特に知名度の高い詩人の一人です。

今の陝西省西安市出身で、字は牧之。号は樊川と言います。祖父は『通典』という歴史書の編者という知識人家庭に育ち、24歳の若さで進士に及第し、エリート官僚への道を歩み始めました。『阿房宮賦』を作って時の皇帝敬宗を諫めたり、『孫子』の注を書くなど行政や兵法にも強い関心を抱く前途有望な若手官僚というイメージの一方、剛直で正義感が強く、傾きかけた唐王朝の退勢挽回を図るも上司とそりが合わず、努力が実らないまま妓楼に遊んだことでも有名だそうです。「数え年50歳で亡くなっているんですよね。もう少し長生きすれば王朝再興のためにもっと功績を残したかもしれませんね」と植田先生。現存する著作集に『樊川文集』（20巻）があります。

さて、今回の詩『懐を遣る』は、長いとは言えない杜牧の人生において、志を得ぬまま揚州で 10 年間（実際はもっと短い）過ごした頃に想いを馳せた七言絶句です。杜牧が 31、2 歳の頃、都を離れて、当時の権力者淮南節度使・牛僧孺の書記になっていた時期がありました。その頃妓楼で多くの女性たちと交流があったそうで、ここから「杜牧はモテモテの色男で、後世、芝居や小説の主人公になることもあったんです」と植田先生。中国語では“詩酒風流”と言えば、遊び人の代名詞。

さて、杜牧の回顧録的な詩の内容を見てみましょう。

qiǎn huái
遣 怀

dù mù
杜 牧

luò pò jiāng hú zài jiǔ xíng
落 魄 江 湖 载 酒 行
chǔ yāo xiān xì zhǎngzhōng qīng
楚 腰 纤 细 掌 中 轻
shí nián yī jué yáng zhōumèng
十 年 一 觉 扬 州 梦
yíng dé qīng lóu bó xìng míng
赢 得 青 楼 薄 倖 名

落魄江湖に酒を載せて行く
楚腰繊細にして掌中に軽し
十年一たび覚む揚州の夢
赢ち得たり青楼薄倖の名

「載酒行」とは船に酒を積み込んで飲酒三昧の生活を送ることです。「落魄」とは落ちぶれるという意味ですが、ここでは職を失ったわけではなく、志を得ない地方勤務の状態を自虐的に表現しています。「江湖」には世間という意味もありますが、ここでは文字通り長江下流域の水郷を指しているようです。揚州は運河も有名です。船で酒盛りをしながらゆらゆらと運河を往来する様子が眼に浮かんできます。

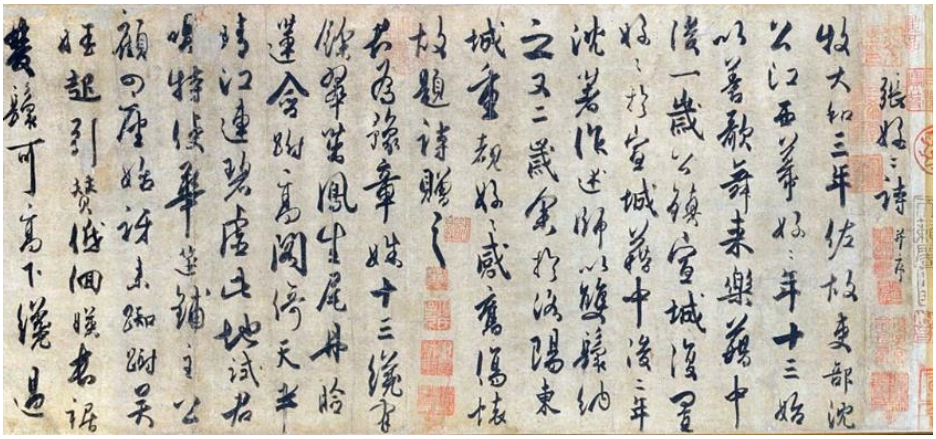
第二句の「楚腰」という言葉は、かつて楚の国の霊王という君主が腰の細い女性を好んだことから、後宮の女性たちにダイエットが流行り、ダイエットのしすぎで飢え死にしたこともあった、という故事を踏まえています。但しここでは昔、楚の国があった南方の美女たちという意味で使われ

ています。「纤细」（纖細）とは感性のことではなく、肌がきめ細かいことを意味します。そして、「掌中轻」とは前漢成帝の皇后で、掌の上で舞を舞ったという趙飛燕（ちょうひえん）の故事を踏まえ、小柄で腰の細い女性を指しています。つまり、杜牧もこういう美女達と遊んだということなのでしょう。

しかし、この揚州での数年間を振り返ってみると、まるで夢のようで、結局獲得したものといえば“妓楼の女泣かせ”という名だけだったな、という内容です。「青楼」とは妓楼のことです。「薄倖」には不幸という意味もありますが、ここでは、モテモテの浮気男という意味です。「かわい子ちゃんがいっぱいいて楽しかったな、ということでしょうかね。悔恨半分、自嘲半分というわけでしょうが、取りようによってはちょっぴり自慢かもしれません。いずれにしろこれではちょっと高校生の教科書には載せられませんね」と植田先生。

私も杜牧といえば、日本の高校の教科書に載っている「江南春」や「清明」のイメージだけだったので、“詩酒風流”という一面もあったのか、と初めて知りました。「風流」とは日本語のイメージと違い、中国語では“遊び人”と言う意味です。人間誰しもライトサイドとダークサイドがあるものです。自分のダークな一面を、ユーモアを交えながら正直に詩に残している杜牧に、私はより一層魅力を感じたのでした。

折角ですので、『江南春』もここでご紹介します。



杜牧唯一の現存直筆《张好好诗》部分（ウィキペディアから、北京故宮博物院蔵）

杜牧は奇抜な表現を嫌ったと言いますが、平易な表現から、ありし日の金陵（いまの南京市）の風景が浮かび上がります。

jiāng nán chūn
江 南 春

qiān lǐ yīng tí lǜ yìng hóng
千里莺啼绿映红
shuǐ cūn shān guō jiǔ qí fēng
水村山郭酒旗风
nán cháo sì bǎi bā shí sì
南朝四百八十寺
duō shǎo lóu tái yān yǔ zhōng
多少楼台烟雨中

南朝とは、隋が天下を統一する前の南北朝時代の南朝のことです。南朝は漢民族の、北朝は異民族支配の国でした。そのままの解釈ですと、何処にいっても高麗ウグイスや花々が咲いている季節に、南朝の時代に建てられた四百八十寺（意味としては数多くの寺）が霧雨の中で霞んでいるという自然描写です。

しかし、当時の歴史的背景を踏まえて考えますと、南朝の統治者は仏教が大好きで、多くの寺を建てたものの、何れの王朝も短命で統治に関しては無能であった、と風刺の意味を込めているとも言われています。孫子の兵法の注釈も書くほど、政治や兵法に通じていた杜牧ですから、単に自然の風景を詠んだだけではなかったかも知れません。このように詩を鑑賞するとき、歴史と作者の背景を知ると、作品が何倍も深く味わえます。この漢詩講座では、植田先生が私達の頭に生き生きとしたイメージが湧くような解説をして下さるので、本当に漢詩がより身近で、親しみを持てるようになります。是非皆さんも参加してみませんか？

中国の歴史を彩る美人百花（14）周璇

寺西俊英

今回は、1930 年代から 40 年代の上海における映画の黄金時代に一世を風靡した周璇の登場である。彼女についてはわんりぃ 175 号（2012 年 7 月号）で、中国の名曲「何日君再来」という書物の中でこの歌に馴染みの深い 5 人の内の一人として紹介しているが、ここでは歌手であり女優であった彼女の生涯にわたって綴って行こうと思う。

周璇は、1920 年（1918 年の説も）に江蘇省の常州市で生まれた。常州市と言えば、前号で紹介した陳円円もこの地で生まれている。筆者の勝手な思い込みでは、太湖を取り囲むようにして蘇州から無錫そして常州にかけて美女が多いように思える。本名は、蘇・璞（磨かれていない玉の意）と言う。つまり蘇家の原石というわけだ。ところが原因は定かではないが蘇家は知識人家庭であったというが、身内にアヘン常習者の母方の叔父がおり、彼女を近隣の街に売り飛ばしてしまった。蘇家は生活に困窮していたわけでもなかろうに・・・そして 6 歳の時、彼女は上海の周家に養子にもらわれた。名前も周小紅と改名することになった。養子になって貧しい生活を送ることになったが、養母が教育熱心で小学校に行くことができ文盲とならずに済んだ。このことを後に養母に対して感謝の意を表している。これから一歩一歩「璞」は本当の「玉」になっていくのである。

周璇（ウィキペディアから）

周璇が生まれた 1920 年頃と言えば、1912 年に清朝が滅亡し中華民国の時代になった少し後である。そして 1914～1915 年の第一次世界大戦時に日本はドイツの根拠地たる青島占領を機に中国の時の政府に対して 21 か条の要求を突きつけ最終的に中国側が受諾したので民族運動が次第に高まり、ついに 1919 年に中国全土に五四運動が起きるなど世情が落ち着かない時代であった。その後東北地方では 1928 年に関東軍による張作霖爆死事件、1931 年には満州事変が勃発した。南方でも日本軍は占領を企てたが中国軍の激しい抵抗を受け、撤退せざるを得ないという第一次上海事変が起きている（1932 年）。抗日の運動が根強く続いている中で上海は三合会などの地下組織による賭博、麻薬、売春などが平然と行われ、また列強による租界という治外法権地区が入り乱れ、「魔都上海」と言われた。そうした状況の中 1930 年代から 40 年代にかけて上海は映画の黄金時代となり、多くの銀幕のスターを輩出し、一つの文化を形作ったのであるからそのエネルギーには驚かされる。

さて周璇である。1931 年彼女が 11 歳の時（1918 年生まれとすると 13 歳）、ピアノ教師の紹介で黎錦晖が設立した明月歌舞団に参加した。そして初めて舞台に立った彼女は、「民族之光」という曲の中の〈与敵人周旋於沙場之上〉（敵と戦場で渡り合う意）という歌詞の一節を歌うと聴衆から熱烈に称賛されたのだ。このため黎は、彼女の芸名を周小紅から周旋とし、さらに「旋」の字に王偏を付けて周璇としている。旋と言う字は、輪とか回転するという意味であり、王が付く璇と言う字は美しい玉という意味なので、この字がいいに決まって

いる。まだ磨かれていない玉・璞から美しい玉になるスタート台に立った。明月歌舞団入団後、彼女は歌、舞踊、ピアノなどのレッスンに励み一歩一歩スターの階段を上っていく。一方で彼女は上海に近い常州市の生まれで上海語しか話せなかった。しかし国語を重視する歌舞団の方針として北京語の習得が必須となった。その時個人教師を買って出たのが後の夫となる厳華であるから縁と言うものは分からないものである。その後、明月歌舞団は解散を余儀なくされたが、厳華は新たに「新華歌舞団」を結成し彼女もそこに移った。そこの舞台で歌舞劇を演じる一方、当時最も重要な媒体であったラジオにもトライする。当時の新聞社「大晩報」主催の〈播音歌星競選〉というラジオ歌手コンテストに出場した。すると白虹（後述）に次ぐ第2 位で入選し以降上海の各ラジオ局を巡り歩き、歌手としての地歩を確立していった。

一方で映画会社の芸華と言う人から声をかけられた縁で映画女優としての活動を始めた。最初は「風雲儿女」などでは端役で出たが、1936 年、映画女優としての本格的なキャリアの幕開けである「花燭之夜」を始め 6 作品に出演し力を付けて行った。そして 1937 年、明星影片公司制作の「街角の天使」（中国語・原題＝馬路天使）に出演し大好評を得た。この映画の中で歌った「天涯歌女」と「四季歌」が大ヒットし、歌う女優の面目躍如であった。この歌は私が以前入手したカセットにあり、改めて聞いたが独特の高い歌声でこの声が当時の人びとの心を魅了したのかと感慨深いものがあった。しかしこれらの歌は、中国らしい抑揚の歌にしか聞こえてこず、声はとても美しいが曲としては日本人には馴染めないだろうと感じた。また同年、「何日君再来」の名曲も大ヒットして押しも押されぬ大スターに昇り詰めた。

これらの歌により彼女の声は「金嗓子（jīnsǎngzǐ）」と呼ばれた。つまり彼女の喉は、金の笛（喉）だという最大級の賛辞が贈られている。

さて、彼女の結婚であるが、前述した厳華と 1938 年 7 月 10 日北京の春園飯店で結婚式を挙げた。ところがその後ゴシップが流布しお互いに不仲となり、1941 年に離婚した。離婚後いくつかのロマンスを重ね、織物商人の朱懐徳や美術教師、香港の名脇役俳優の曾楚霖たちとの同棲を重ねたが、二度と結婚することはなかった。

抗日戦争の勝利後、彼女は上海と香港の映画に多数出演したが私生活では恵まれない状況が続いたらしく、1951 年 31 歳の時、映画「和平鴿（平和のハト）」の撮影時に突然精神障害を発病し上海の病院に搬送された。その後、1957 年に健康状況も回復してきて退院準備を進めていたが、7 月 19 日に突如日本脳炎を発症した。懸命な治療の甲斐もなく 9 月 22 日、上海の崋山病院で帰らぬ人となった。享年 37 歳。あまりにも若い死であった。天が二物も三物も与えすぎたのかもしれない。

本稿の最後に 1930 年代から 1940 年代に活躍した「上海七大歌星」を簡単に紹介したい。その中で前述の「白虹」についても述べたい。その七人とは、本稿の周璇、白虹、白光、姚莉、呉鶯音、龚秋霞、李香蘭でいずれも美しい。7 人とも生まれはほぼ同じ頃で、1918 年から 1922 年の 4 年間に生まれている。白虹は周璇と同じ 1920 年の生まれである。周璇は 37 歳で亡くなったが他は皆長生きである。白虹の本名は白麗珠といい北京生まれである。周璇と同じく明月歌舞団に属していた。彼女は当時の中国流行音楽史上、第一位“歌唱皇后”と呼ばれ 7 人の中で常に代表的な地位にあった。周璇の代表曲は「天涯歌女」や「四季歌」などがあげられるが、白虹のそれは「郎是春日風」や「酔人的口紅」などがあげられるという。また姚莉は、〈銀嗓子〉と呼ばれた。周璇に少し及ばなかったのであろうか。李香蘭については説明するまでもないが、大鷹（旧姓・山口）淑子は 1920 年 2 月 12 日、中国・遼寧省の生まれで、2014 年 9 月 7 日に東京都で 94 歳の生涯を閉じている。

河南省或いは「中原」雑感―(24)

河南省をめぐる友好提携都市(つづき)

文と写真＝村上直樹

1月号から続けて、河南省と日本の友好都市関係を話題にしてきた。そうした地方レベルでの公式な交流が進むためには、国家間が友好関係にあることが大前提である。その意味でも、今年が50周年に当たる「日中国交正常化」(中日邦交正常化)の実現は重要であった。1972年9月25日午前、田中角栄首相が北京首都空港に降り立ち、周恩来首相の出迎えを受けた。9月29日には「日中共同声明」(中日聯合声明)が発表され、両首相に大平正芳、姫鵬飛の両外相を加えた4人が署名した。

この田中訪中に先立つ1972年2月21日にニクソン米大統領とキッシンジャー補佐官が中国を訪問した。ただし、この時は2月27日にいわゆる「上海コミュニケ」が発表されただけで、米中の国交は正常化されていない(米中国交正常化は1979年1月)。つまり、半年後に日本が米国を追い越したことになる。これにキッシンジャーが憤慨し、後の「ロッキード事件」における田中前首相の逮捕につながったという(春名幹男『ロッキード疑獄』2020年、KADOKAWA)。

さて、河南省と日本の地方レベルの友好都市関係であるが、前回(7月号)に引き続いて、一般財団法人・自治体国際化協会(クレア)のリストにない提携をインターネットで見つけ、その理由などを探ることにしたい。今回はまず、河南省人民政府のホームページ(HP)にあった「許昌市与日本掛川市簽訂建立友好城市関係意向書」(許昌市と日本の掛川市は友好都市関係を建立するという意向書に調印した)という2008年8月28日付の記事が目に留まった。

『人民日報』1972年2月22日(左)、9月26日(右)

短い記事であるが、8月20日に当時の静岡県掛川市長・戸塚進也氏の一行が河南省許昌市を訪問し、今後、両市がさまざまな分野でさらに交流と提携を進めることを表明した、とある。「意向書」という表現がやや気になったが、両市が友好関係を結んだと受け取れる。ところが、掛川市役所のHPを確認すると、現在同市が海外姉妹都市関係を結んでいるのは、米国の2都市、韓国、イタリア各1都市のみであり、許昌市の名前は挙げられていない。

さらに調べてみると、2008年12月10日開催の掛川市議会定例会会議録に行き当たった。そこでは、高塚昌彦市議が次のような質問をしている。

「8月22日(ママ)、全員協議会で北京オリンピック視察報告がされました。その中で、中国河南省許昌市友好交流と協力関係を創立する意向書について説明されましたが、…(中略)…意外と簡単に、私費で行った視察旅行中でのこと、したがって、そういうことで市長は意外とあっさり引っ込められたように思います。」とした上で、その後の進展の有無を質(ただ)している。これに対する戸塚市長の答弁から判断しても、両市の提携話は立ち消えになってしまった(あるいは、「正式」な締結には至らなかった)ようである。

今回は、許昌市側がどう対応したかなど、その後の経緯について知ることはできなかったが、あらためて、現在、許昌市が国際友好都市関係を締結しているのは、米国・イリノイ州ボリングブルック市(2005年)、ロシア・サマラ州キネリ市(2007年)、韓国・慶尚南道山清郡(サンチョン)(2009年、許昌市の下の県級市――禹州市が結んでいる)、韓国・蔚山(ウルサン)広域市中区(2015年)、ブルガリア・スモリャン市(2015年)の5都市であり、掛川市は含まれていない(『許昌ネット』2016年9月26日付記事)。

「クレア」によるリスト以外の提携関係、つづいては開封市の「中国共産党開封市委員会外事工作委員会弁公室」のHPにおける「友好城市」をあらためて確認した(「開封市人民政府外事弁公室」と共通のページ)。この開封市のHPは、提携の経緯、相手側の都市の状況等が紹介されており、河南省の他の市にお

ける同種のページに比べて充実している印象である。このページには「クレア」のリストに出ていた戸田市と下諏訪町に加えて、伊賀市、伊勢市、千厩(せんまや)町の3市町が出ていた。掲載日はいずれも2011年1月7日である。

このうち、伊賀市については1992年に「友好交流関係城市」となった、とある。とくに伊賀市国際交流協会を通じた交流が盛んなようである。また、伊勢市については、伊勢神宮も紹介されており、伊勢市日中友好協会を通じた相互往来の実績が紹介されている。この2つの市側では、開封市を正式な国際友好都市に数えていないが、いずれも、河南省と正式な友好関係を結んでいる三重県の市であり、開封市側では、他の友好都市と同等に扱っているようである。

3番目の千厩町との関係について、まず、開封市のHPには、1997年当時、千厩町側から開封市に対して、郷鎮レベルの行政区域との間で友好関係を結びたいという照会があり、開封市が開封県陳留鎮を紹介したと書かれている。今回まで、この「雑感」で追ってきた中で、河南省側が農村部の郷鎮であるケースは初めてである。

ほぼ全てのケースで、提携関係として対等なのは当然としても、少なくとも面積、人口といった規模で比較すると中国(河南省)側が各段に大きい。たとえば、同名の誼で提携した河南省「南陽市」と山形県「南陽市」の場合(4月号参照)、面積で160倍、人口で330倍ほど違う。その点で言うと、千厩町は人口が約1万3千人、面積が約90km^2、他方、陳留鎮は約5万2千人と約64km^{2}であるから釣り合いが取れている(行政体系上、中国では国→省→市→県→鎮であり、国→県→市区町村である日本の町の方が「上位」であるが)。

開封市のHPによると両者の交流は順調に深まり、とくに同鎮の三里堡小学校の新校舎建設を千厩町側が資金面で協力することになった。千厩町は陳留鎮との友好関係を非常に重視しており、その証として同町のHPでは陳留鎮との交流をとくに取り上げている、とある。ここで千厩町のHPが見たくなった。

しかし、残念ながら千厩町は独立の自治体としては、2005年9月20日に合併により廃止され、現在では岩手県一関市の一部となっている。そこで、国立国会図書館・インターネット資料収集保存事業(Web Archiving Project: WARP)より、合併前の2005年8月30日の同町役場のHPを見ると、確かに陳留鎮との関係がかなり詳しく書かれていた。それによると、2002年には千厩町と陳留鎮人民政府の間で「友好交流覚書」が取り交わされている。三里堡小学校の新築への協力についても、落成式における「熱烈歓迎日本国千厩町友好代表団」の横断幕の写真とともに報告されている。

ところで、陳留鎮が含まれる開封県は2014年に現在の祥符区と名称が変更され、開封市の市街地の一部となった。この祥符区には、開封県から引き継いだ陳留鎮を含む7つの鎮と8つの郷が存在する。鎮の1つはすでに2020年12月号の「雑感」で紹介した朱仙鎮である。

その12月号では、私が2008年3月15日に同鎮の「岳飛廟」を訪ねたことに触れた。実はこの時、明らかに高齢の一人の女性が来ているのを偶然、見かけた(写真参照)。この女性こそ「中西方文化交流的紅娘」(中国と西洋の文化交流の仲人)、呉雪莉・河南大学教授その人である。呉雪莉氏(本名 Shirley Wood)は1925年7月15日、米国はアーカンソー州スミスバーグ市の生まれ。1945年に中国人留学生・黄元波と結婚して、翌年に中国に渡り、以後、英語教育、翻訳あるいは小説執筆を通じて、中国と世界の相互理解に多大な貢献をした。

夫の転勤に伴って開封市に移ったのは1953年。1957年には河南大学の外国語教師の職に就き、1975年には中国籍を取得した。呉教授は今年(2022年)の4月7日に開封で享年96歳の天寿を全うされた(『河南大学新聞網』)。激動の歴史を生き抜き、国家間あるいは都市間の関係を遥かに超えた、友好・友情を体現された呉教授に心から敬意を表したい。

2008年3月15日、朱仙鎮「岳飛廟」にて

中国の面白い神話物語・伝奇物語（17）－李娃伝（下）－

顧 傑

ついに公子は、実父にも見捨てられた。

ボロボロになった服は、化膿した傷を隠すことすらできなかった。これを見た通行人は気の毒に思い、時折余り物の食べ物を分けてくれたが、近寄る人は誰もいなかった。

そして冬が、やってきた。

ある大雪が降る朝、寒さと飢えに駆られた公子は、雪の中を乞食（こつじき）に出かけた。物乞いの声はとても悲しく、それを聞いた人は皆涙を流した。雪が激しく、ほとんどの住宅は門を閉ざしていた。公子は町の東門に着くと、城壁に沿って歩き、7、8 軒通り過ぎた先には、唯一門を開けている家があった。李娃の家だったが、公子はそれとは知らずに、物乞いの声を張り上げた。 寒さと空腹の中での叫びは、人の心に響いた。

李娃は屋根裏部屋からその声を聞いて、下僕に言った「あれは公子の声に違いありません」

彼女は急いで外に出て、乾いて痩せて、皮膚がただれて、ほとんど人間とも思えぬ姿の公子を見た。

「これは、公子、あなたではありませんか？」

公子は李娃の声を聞くと、悲しみと怒りで地面に倒れ、そのまま気を失ってしまった。

李娃は彼の首を抱きしめて泣き、下僕に刺繍した夜具を持って来させ、公子を包み西棟に運ばせた。

「公子がこんなになったのはみんな私のせいだ！」

と泣き崩れた。李娃の母親は公子を見て驚いた。

「どうしたの？」と訊くと、李娃は

「公子です」と答えた。母親はすぐに

「彼を追い払いなさい。連れてきてはいけない」と怒った。李娃の顔が沈み、母親を見て言った。

「公子は沢山の財産を持って私たちの家に来ましたが、それを 1 年も経たないうちに私たちのために使い果たしました。それなのに私たちは彼を謀って追い払いました。これは人の道に外れます。公子の志を失わせ、人々から軽蔑されるようにしたのも私たちです。公子の親子関係は親密だったのに、その絆は断ち切られ、父親は公子を見捨てました。それも私たちのせいです。公子がこんな大変な不運にあったのは私のせいだと、世間の誰もが知っています。公子の親族が本気になって、公子に何があったのか調べて、事の次第を知れば、今度こそ私たちに災難が差し迫って来ます。人の目を逃れ、譬え神を欺いたとしても、鬼は私たちのことを許すはずがありません。

お母さん、私はあなたのおかげで 20 年も生きて来ました。私のために使ったお金は多いでしょうが、あなたが 60 歳を超えた今、私が 20 年間の衣食住に費やしたお金をまとめ、自分自身を償還するためにあなたに返したいと思います。

私はこの方と一緒に暮らすことにします。近くに住む場所を探します。朝夕、親孝行にあなたを訪ねられれば、それで幸せです」

母親は、李娃の気持ちが固いのを悟り同意した。

李娃は母親にお金を渡したが、それでもまだ金が結構残っていた。李娃は家から北へ四、五軒行ったところに空き部屋を借りて、そこで公子を看病することにした。風呂に入れ、汚れた服を着替えさせた。また、消化の良い温かいお粥を作って与え、内臓を丈夫にするチーズを食べさせた。おいしいものを食べさせるのは、公子の体がある程回復した十日後からだ。

次に靴下から帽子まで、質のいい絹を選んで自ら公子の服を仕上げた。数か月も経たないうちに、公子の筋肉は徐々にふっくらし、肌の色つやもよくなり、年末には完全に回復し、以前のようになった。

ある日、李娃は公子に、「あなたの体は回復しました。次は志です。どうか以前の勉強を思い出してください。まだ覚えていますか？」と訊ねた。

公子は「一、二割しか残っていない」と答える。

李娃は公子を連れて町の南門のそばにある四書五経を売っている書店に行き、あり金をはたいて公子が欲しいものをすべて買った。本は車に詰め込んで持ち帰った。それから公子は、李娃のサポートを受け、あらゆる雑念を捨てて勉強に没頭した。昼夜を分かたず熱心に勉強し、夜がどんなに更けても、李娃は公子を支えた。公子は疲れると歌を歌い、詩を書いた。わずか 2 年間で、公子の勉強は大きな成果を上げた。国内の全ての記事・書籍を読破して公子は李娃に言った。

「今から試験に申し込んでも問題ないでしょう」

「百戦に勝つために、その知識を磨きましょう」

さらに一年が経ち、李娃は公子に

「今のあなたなら問題ないでしょう」

公子は難なく一番高いレベルである甲科に合格した。総試験官だけではなく、彼の文書を読んだ先輩たちでさえ、賞賛と羨望を表明し、公子と知己を得ようとしたが、チャンスはほとんどなかった。

それは、李娃が「あなたは未だ、あの方々と友達付き合いをすべきではありません。優れた才能と美徳を持つ人々は、試験に合格すれば政府などにて地位を獲得でき、世の中で良い評判を得ることができるでしょう。しかしあなたの過去には問題があるし、品徳が十分ではありません。今のあなたは他の学者ほど条件が良くありません。このまま知識という武器を磨き、二度目の勝利を収めるために努力しなければなりません。 そうして初めて、あなたは有益な人と友達になることができます。」

それ以来、公子はより勤勉になり、評判も日々向上した。その年、3 年ごとの国家試験が行われ、皇帝は国中から優秀な人材を集めよとの勅令を出した。

その試験で公子は見事に首席を取り、成都の政府に職務を与えられた。公子は、宰相以下ほとんどの役人と知己を得て、仲間となった。

李娃は就任しようとした公子に言った。

「あなたは元の身分を取り戻したので、もう私があなたにして上げることはありません。私は卑賤の出です。これ以上あなたと一緒にいると、あなたの顔に泥を塗ることになるでしょう。あなたは有名な貴族の娘と結婚すべきです。」

公子はそれを聞いて泣きながら

「あなたがいないと、私はどうすべきか分からない。いかないでくれ！」と言ったが、李娃は聞かない。

剣門鎮（百度百科より）

「長江を渡るまでご一緒します。四川省の剣門に着いたら、私は戻ります」と言い、公子も仕方なく同意した。

1 か月の旅をして、二人は剣門に到着した。その時にはすでに役職の異動に関する書類が届けられていた。公子の父も皇帝によって常州から四川に入るように命じられ、成都の知事に任命された。12 日後、公子の父親も剣門に到着した。公子は父親がいる旅館にいき、名刺を渡した。父親は恐る恐る名刺を取り、その上に祖父と父親の正式な名前が書かれているのを見て、公子であることに気づき驚いた。息子の身の上について尋ねると、公子は事の成行きをすべて語った。父親はとても驚き、李娃はどこにいるのか尋ねた。すると公子は

「彼女は私をここに送り、帰りました」といった。

父親は「それはいかん」と言い、李娃を追いかけさせた。李娃を連れ戻すと、剣門に家を用意して住まわせ、父子は先に成都に行った。成都に到着するとすぐ、仲人を雇い、李娃の処へ婚約を結びに行かせた。

後日、剣門で正式な結婚のしきたり従って挙式して、正式に夫婦となった。

結婚後の李娃は、家事の管理を厳格に几帳面に行い、義理の両親から高く評価された。数年後、公子の両親が亡くなった。やがて服喪期間を過ごす小屋に霊芝が生え、数十羽の白いツバメが巣を作っていることが知れ渡り、皇帝はこれを瑞兆として、彼に特別な褒美を与えた。父親の喪が明けると、公子の役職は昇進を繰り返し、政府の要人となっていった。彼らには 4 人の息子がいて、全員が高官となり、最下位の役職でも太原の知事であった。そして子供達の結婚相手もすべて有名な家族で、彼らの一族は繁栄を極め、当時、彼らと肩を並べる家族はいなかった。

～～～～～～～～～

以上で李娃伝は終わりです。長い物語にお付き合いいただき、有難うございました。今後もまた、唐代の伝奇物語を紹介させて頂ければ幸いです。

李娃伝の作者は、李娃について以下のようなコメントをしています：

「嗚呼！ ふしだらな売春婦がこのような誠実さを示すとは。古代の勇士や先人さえ、李娃に及ばないだろう。彼女のことは感銘でしかない。私の叔父は金州の長官を経て、家事部門に異動になり、水と陸の輸送の使節を務めたが、公子と 3 年間の任務を共にしたので、彼から話を聞くことが出来たのだ」

「秦皇島」をご存知ですか？……（17・完）

文と写真　吉光　清

本誌 265 号から、「秦皇島駅」を 34 路のバスで出発し、「北戴河バスステーション」で 22 路のバスに乗り継いだルートに沿って見物可能な観光ポイントを案内してきたが、バス終点の「北戴河駅」周辺の案内まででひと区切りをつけることとしたい。

■人工スキー場の遠望と野外市場

「南戴河海滨市场」を過ぎて、宁海道を北戴河駅に向かって進む 22 路のバスでは、やがて右側の人家の奥に小高い丘が見え隠れするようになる。地図を見ると、戴河が西に大きく蛇行し、対岸が近くに迫る辺りの人工雪スキー場の頂上が見えていたのだった（写真横左）。冬季には戴河の上を歩いて渡れるような寒さの場所なので、人工雪も簡単には消えずに、十分営業が可能になるのであろう。

バスは更に北上して、宁海道が「山深线」と交差する手前に「牛头崖镇政府」バス停があり、辺りには牛头崖镇政府や牛头崖小学校がある。一帯は牛头崖村で、高層の建物は無いが、畑や草地の間に家具や衣料を売る大型の店舗などがある。ここで、毎月 2 回、空き地を利用して野外市場が開かれる。一度、覗きに来たことがあったが、とても大規模で、地面に直に商品を広げた露店の間を買い物客がひしめき合い、通行もままならなかった。いろいろな産物が持ち込まれ、蜂蜜などは絞りながら売られていて、値段も格安のようだったが、到底、客には成り得なかった。

右折して「山深线」に入り、北東方向に進み、京哈高速道支線の高架を潜って、大きな交差点を直進すると道路の名称は「站南大街」に変わる。途中にバス停も無いまま、北戴河（鉄道）駅に到着する。

■北戴河駅の立地と構内の様子

22 路のバスが到着するのは駅に向かって左手の地上部の発着所で、駅前広場までは階段を昇らなければならず、荷物が大きいとひと苦労である。

駅前広場は南側に大きく開け、日陰は全く無い。駅舎は、横に広い 2 階建ての、さして趣の無い建物で真ん中に入口、左側に出口、右側に乗車券の販売窓口への入口とコンビニがある。道路を挟んで、洒落た外観のホテルと思しき建物が並ぶ。駅舎の右横の広場に

頂上を覗かせた人工雪スキー場

北戴河風味の対虾酱

SL が置かれていたが、その由緒などは特に示されていなかったように思う。

乗車するには駅舎の正面入り口から入るが、それには、先ず屋外に設けられたチェックポイントで身分証明と乗車券を示す必要がある。そこを通過して駅舎に入るとすぐに荷物を機械に通し、ボディチェックを受ける。それが済むと左に進みエスカレーターを使って待合室や改札口がある階に昇る。エスカレーターで昇った先には、土産物の販売コーナーがあり、名産の酒類、海産物類、菓子類が販売されていたので、確認もせずに「北戴河風味海鮮醤」という 3 個セットを買ったことがある。調べたら「对虾（コウライエビ）」のエビ味噌の加工品らしかった。食べてみたら、白酒になら合いそうだが、日本酒にはちょっと味が濃すぎる珍味だった（写真上右）。

広い待合室の奥には給湯スペースとトイレがあったが、トイレ内は、いつもタバコの煙が漂っていた。勿論、禁煙の表示はされている。その右奥にはファストフード店があったが、閉店している状態に出会う方が多く、利用したことは無い。

改札口の上方には大きな電光掲示板があり、列車の発着状況が示されていた。乗客たちはお目当ての列車の改札時刻が近づくと、改札口の前に行列を作り始める。改札を通らないと、プラットフォームには出られないので、それまでの時間帯、プラットフォーム上は無人である。改札はかなりギリギリにならないと始まらないが「発車 5 分前には改札を閉める」と告示されている。列の最後尾に並ぶと、改札を経てプラットフォームに着くのが発車間際になってしまい、座席予約がある車両の乗車位置まで移動できないまま、他の車両に乗車することになってしまう。す

ると、荷物を持ちながらの車両から車両への移動が必要になり、かなり難儀なことになる。指定された席に別の乗客が座っていることもあり得るので、ほどほど早目に行列に並ぶ方が無難である。

■北戴河駅で“ゾッ”とした話

北戴河駅は北京を経由して帰国する時や、長春、瀋陽などの東北地方への旅行、天津へ旅行する時に利用したが、２度ほど冷や汗を掻いたことがあった。

ある時、いつも通りの時間の余裕を見込んで駅に到着したが、駅の外のチェックにいつも以上に長い行列が出来ていた。駅舎内に入り安全検査を受けた後にも、いつもは無い、もう一つのチェックポイントが作られて、そこにも長い行列が出来ていた。ジリジリしながら通過して、すぐに改札の行列に並んだ。政府要人が利用する場合の対応らしかった。少し遅めのバスを利用していたら、発車時刻に間に合わなかったろうと思い、ゾッとした。

もう一度は、11 月の後半に帰国するために午前発の北京行きの新幹線に乗ろうとした時で、駅の待合室に入り、電光掲示板を見ると様子がおかしい。お目当ての列車の前に到着している筈の列車が全て遅れ、到着の見込みが立たないのであった（写真下）。後に判明したことによると、秋が深まると、東北地方は既に寒さが厳しく、ハルビン方面から来る路線の線路にトラブルが生じたのであった。

新幹線の予約をして貰った知人の中国人に慌てて電話をして事情を話したところ、有難いことに直ぐ駆けつけてくれ、切符の払い戻しと、秦皇島駅前の長距離バスセンターまで乗り付けてくれた。おかげで、午後３時発の北京行きに潜り込むことが出来た。高鉄（新幹線）なら２時間ほどで北京に着くはずが、バスが市内に着いたのは７時過ぎだった。しかし、翌日早朝発の便に予定通り乗ることが出来た。帰国便に遅れ、改めて便を手配することになったら、いつ帰れるか分からなくなり、帰国してからの予定も滅茶滅茶になったろうと考えると、今でもゾッとする。

列車の到着時刻不明を知らせる電光掲示板(2016 年 11 月)

■北戴河芸術村での展示会

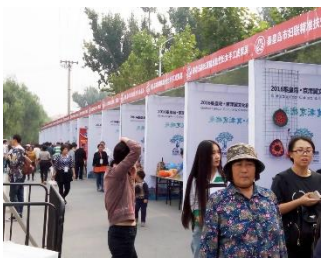
北戴河駅を左に見やりながら站南大街を進むと海北路との交差点に出る。左折して鉄道高架をくぐって北へ 10 分余り歩くと、緑が濃く、風情のある一画に出る。「北戴河艺术村落」と呼ばれ、旧民家などを残し、散策路を整備し、芸術家たちの製作活動の拠点作りを目指しているようであった。

この場所で開催された産業展覧会に、チケットを貰ったので出掛けたことがあった。散策路の片側に展示用のブースが長く連なっていた（写真下左）。

「北京交通大学」などの高等教育機関や社会福祉関連の NPO などが出展していた。物品販売は無かったが、道端の売店では蒙古風串焼が美味しそうな匂いを撒き散らしていた。広場には承徳、張家口、衡水など、河北省の有名観光地を宣伝する小屋掛けも並び、８人乗りの電動自動車が会場を巡っていた。

とあるブースでお馴染みのキャラクターを見かけた。当時は熊本で働いていたので、思いがけない場所で知人に出会ったような心持ちだった（写真下右）。

コロナが蔓延する以前に訪問・滞在した秦皇島市について記憶を辿りながら、知り得た範囲の観光情報、生活情報をまとめてみた。拙稿の掲載を許していただいた各位には厚く感謝申し上げたい。今年は日中国交正常化 50 周年と、意義深い年に当たる。その一方で、ロシアのウクライナ侵略を契機に、覇権主義国家の脅威が突然、身近に感じられることにもなった。先ずは、プロパガンダに踊らされないよう、自分で考えることを放棄せず、草の根の交流を続けて行くことが最も重要なのだと胆に銘じたい。（おわり）



長く連なった展示ブース

ここで出会ったくまモン

「東西の峻厳な二人の革命家」(3)

和田　宏

別の場所で会議を開いていたクロムウェルは、国王斬首の知らせを受けて、『今、神の決断は下された。神は、国王が生きることを喜び給わず。人は王ならず、王はキリストひとりなり、アーメン！』と述べた。ヘンリー8世は、右腕だったトマス・クロムウェルを斬首刑に処したが、トマスから6親等離れた子孫のオリヴァ・クロムウェルは、ヘンリー8 世から5代あとのチャールズ1世の首を切断した。1649年5月19日、議会は君主制と貴族院を廃止し、庶民院議会を国権の最高権威とする宣言を発し、イギリス史上初の共和国(Commonwealth) が樹立された。

この後もクロムウェルは、軍内部の反乱を鎮圧し、反議会派の拠点であるアイルランドとスコットランドの鎮定に向かった。アイルランドでは彼の軍隊は、カトリック教徒によるイングランド人殺害への報復だとして、多くの無辜の市民を殺し、収奪の限りを尽くしアイルランドを事実上の植民地にしたが、これが、こんにち迄続くアイルランド人のイギリスへの強いうらみの原因となった。クロムウェルは、1651年には「航海法」を施行してオランダの中継貿易を排除しようとし、このために起こった英蘭戦争にも勝利する。

『護国卿』

1653年12月16日、イギリス史上初の成文憲法として『統治章典』を公布し、クロムウェルは元首に当たる終身の『護国卿』に就任。イングランド、スコットランド、アイルランドの各共和国は、只一人の護国卿と議会によって統治され、立法と行政を共有するとされた。国の最高統治権を与えられた彼は、全国を11の軍管区に分けて軍政官を置き、事実上軍事独裁を敷いた。鶏闘、競馬、決闘、賭博を禁止し、パブを閉店させ、奢侈贅沢を諌め、下俗な芝居の上演を禁止した。当時人気を博したシェイクスピア劇を上演していたグローブ座も閉鎖の憂き目を見た。イギリスは極めて禁欲的な時代が続いた。クロムウェルは1654年消費税を世界で一番早く導入し、1657年にはユダヤ人追放令を解除している。

清教徒革命の後半になると、過激な共和主義思想をはじめ、神秘主義的な流派が溢れた。このうち、聖職や儀式を否定し、神との直接的交わりを重視するクウェイカーや、あらゆる権威を否定しキリストの国をこの世に創設するという千年王国論者などが出て来て、クロムウェルを悩ませた。クウェイカー教の創始者である元靴屋で乞食同然の格好をしたジョージ・フォックスとも面会し、フォックスの話に真摯に耳を傾けた。私の最も尊敬する新渡戸稲造先生は、クウェイカー教徒であり、5歳年上の妻メアリー・エルキントン（新渡戸萬里子）もクウェイカー教徒である。津田梅子は、クウェイカー教徒によって創設されたペンシルベニア州のブリムマー大学に 1889 年（明治 22 年）から 3 年間留学した。クウェイカーとは、震える(quake)から来ているのだが、彼らは集会で自分の罪咎などを告白しているうちに身体が震え出すので、こう呼ばれた。正式にはフレンド派と言い、東京都港区三田には「普連土学園中学校・高等学校」もある。新渡戸先生や内村鑑三が学校の創立を助言し、梅子の父・津田仙が、“普(あまね)く世界の土地に連なる”学校であるようにと命名した。

クロムウェルは、エリザベス・バウチャーとの間に男5人・女4人の9人の子を儲けたが、最愛の次女エリザベスが癌で亡くなり、その看病でインフルエンザをこじらせ、1658年9月3日、59歳でその波乱の生涯を閉じた。このあと、三男リチャード・クロムウェルが二代目の護国卿に就任したが、父親程のカリスマ性もなく凡庸だったため、1659年5月引退。チャールズ1世の次男チャールズ2世が亡命先のフランスからロンドンに戻り、1660年5月29日、国王の座に着いて王政復古がなった。ここに清教徒革命は幕を閉じたので

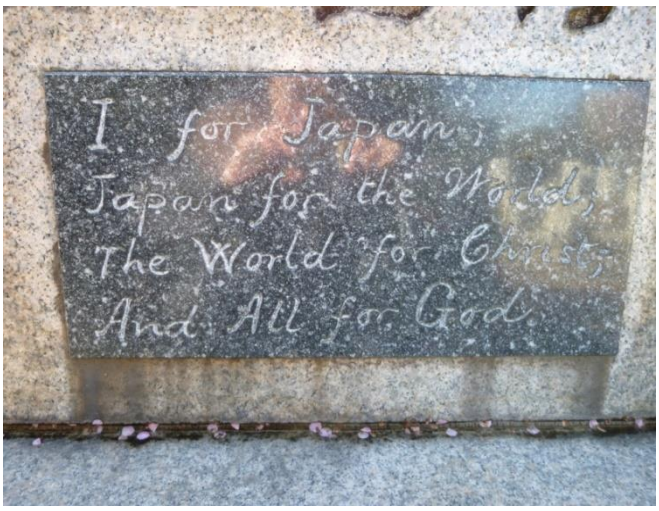
ある。君主制と貴族院を廃止し、庶民院議会を国権の最高権威とする宣言を発した 1649 年 5 月 19 日からチャールズ 2 世が国王となった 1660 年 5 月 29 日までの 11 年間だけ、イギリス史上に空前絶後の共和国（Commonwealth of England)が存在したのである。因みに、現在のイギリスの正式名は、『グレイト・ブリテン及び北部アイルランド連合王国（United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)』であり、共和国ではなく、王国である。

クロムウェルの遺体は、死後 2 年余り経った 1661 年 1 月 30 日に墓から掘り出され、死んでいるのに斬首された。12 年前にチャールズ 1 世が斬首に処せられた同じ日にである。チャールズ 1 世を裁く法廷を開いた裁判長はじめ、クロムウェルに倣って死刑判決に賛成のサインをした議員らも次々に捕まり、斬首された。クロムウェルの首は鉄の棒の先に突き刺され、ウェストミンスター宮殿（国会議事堂）の軒に 24 年間も晒された。更にこのあと、議事堂の守衛か誰かが首を持ち去り、死後半世紀経った 1710 年、首が骨董品として売りに出された。買った者が見世物にしたが、最終的には母校のシドニーサセックスカレッジに埋葬された。

ここで、私が強調したいことは、イギリスでは今から 400 年前に国政を巡って議論を闘わす国会が存在し、普通選挙によるものではないものの、各地から選ばれた議員が居た訳であり、17 世紀の議場が現在も同じ佇まいで使われていることである。日本は徳川幕府が鎖国を敷いた頃であり、中国は清朝の 3 代皇帝順治帝（愛新覚羅福臨）が明を倒して首都を北京に移した頃である。いかにイギリスでは民主主義制度が進んでいたかを知って、私は驚きを禁じ得ない。

『日本での紹介』

我が国におけるクロムウェルの最初の本格的伝記は、1890 年民友社から刊行された竹越與三郎の『格朗空』である。民間歴史家の代表、民主主義の伝道者の竹越は、前橋教会で洗礼を受けたプロテスタントであり、彼が熱心に活動した組合教会（プロテスタントの一派会衆派の日本での名称）こそ、清教徒革命の中心勢力であったクロムウェルの独立派教会の後身である。1891 年 1 月、第一高等学校で新学期の始業式に明治天皇の教育勅語の奉読式が行われた際、嘱託教員だった内村鑑三は、奉読後の奉拝（最敬礼する）をためらった。世に言う“内村鑑三不敬事件”である。内村は、丁度熱心に読んでいたトマス・カーライルの書いた英文の著書『クロムウェルの書簡と演説』に魂を奪われていた為、教育勅語に低頭することを拒み、その代償として免職され、国賊と世間から罵倒され、妻・加寿子のインフルエンザによる死という不幸を一度に一身に負わなければならなかった。しかし、内村をして、クロムウェル伝に出会わなければ、その後の自分はなかったとまで言わしめている。彼は 2 つの J（Jesus と Japan)に生涯を捧げ、キリスト教無教会派の創始者として後の知識人に多大の影響を与えた。我が家のすぐ傍に、『登戸学寮』と言うキリスト教の学生寮があるが、この学生寮は内村鑑三の愛弟子・黒崎幸吉が 1958 年に建てたもので、内村自筆の“I for Japan,Japan for the World,The world for Christ,And All for God”の額が飾られている。府中市の都立多磨霊園にある鑑三の墓石にも同じ英文が刻まれている。多磨霊園には新渡戸夫妻のお墓もある。



多摩霊園にある内村鑑三の墓石

陝西省博物館見聞記（上）

平島　克子

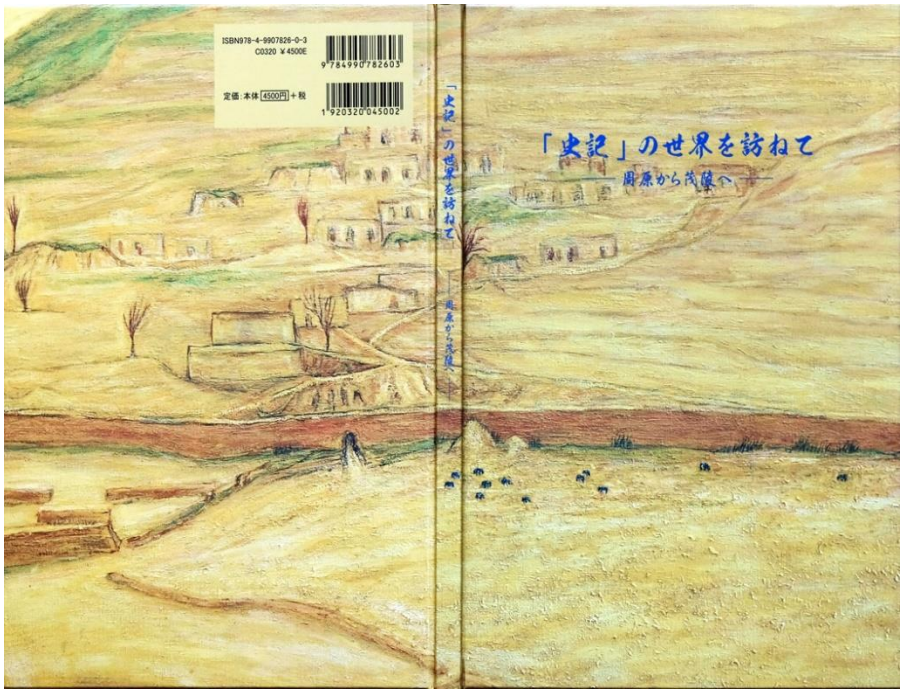
■**平島克子略歴**：1940神戸に生れる。小学５年で油絵をはじめる。同じころ子供向けの「三国志」に夢中になる。1964早大卒業。1984年、中国建国35周年のイベントとして中国政府が日本青年3,000名を招待。代表団の一員として訪中。1984～2000年、二紀展出品、二紀展奨励賞受賞)。2000年、多摩秀作美術展入選。2001年「日・仏・中現代美術世界展入選（北京)。2006年、世界堂絵画大賞展入選。中国旅行10回。

■はじめに

1984 年 9 月末、中国政府は建国 35 周年を記念して日本の青年 3000 人を招待しました。私はこの時 43 歳でしたが、青年の一人として「西安コース」に参加しました。この前年に 10 人の日本の中高生が天山山脈を馬で越え、ウルムチの人々と交流するという一大事業があり、我が家の長男（中 3）もその一人でした。その後新疆から度々の来訪があり私も参加していました。そのような中この招待が実施され、学生時代から中国の歴史を勉強していた私もこのチーム（一班は 10 人）の一員になれたわけです。高校時代（当時はまだ国交が回復していなかった)、神戸の港に停泊している外国船を見ながら「いつか密航して行きたい」と願っていたのですから、私にとっては人生最大のプレゼントでした。嬉しさを抑えきれなかったのを覚えています。そして現代の遣唐使になることを自覚していました。

北京での国慶節のパレード参観に始まり、西安・上海と朝から夜までびっしりのスケジュールの 10 日間を終えて帰国した夜、解散式を行う代々木のオリンピックセンターに到着したその時に、上野の公募展に出していた油絵の初入選が知らされたのです。子供の頃からの夢であった「中国をテーマにした絵を描く事」の実現に更に又一歩を踏み込んだのです。入選したことで年内は例年よりずっと忙しくなり、転居の必要性も出てきたためこの「陝西省博物館」の記録は 1 月に入ってから書いたものと思われます。

その後、色々な形をとって九回中国を旅しました。この時公募展に出品するための絵の取材だけでなく、「何時の日か・・・」との思いから歴史に関わるものをため込んできていました。各地の博物館、兵馬俑坑（5 回)、乾陵（3 回)、茂陵（2 回)、将軍の墓や故居など。特に湖北省博物館では、あの時見た編鐘よりもずっとずっと規模の大きく豪華なものに出会いました。それが楚の国から属国の曾国（随州）に贈られたもので、一式そのままに出て来たというのですから驚くしかありません。最大の鐘は私の背丈ほどもあったのです。



画集「『史記』の世界を訪ねて―周原から茂陵へ―」表紙（2014 年）

9 回目の個展からはテーマを“歴史”に変えました。11 回目となった最後の個展は私の生前葬だと思っています。遠方からも会いたいと思っていたいろんな人達に来

陝西省博物館正面（1984 年）

陝西省博物館前で集合写真（1984 年）

てもらえましたので。終了後、すぐに本にすることを決め動き出しました。すべての絵に、それにまつわる事柄や物語を書き加えて 2014 年 6 月に「『史記』の世界を訪ねて―周原から茂陵へ―」を出版しました。

■陝西省博物館

いよいよ陝西省博物館見学の時が来た。しかしそこは西安の南城門の側にあったので、宿舎の人民大厦からはほんの僅かな時間で、まだ心の準備もまるで出来ないうちに着いてしまいひどくあわててしまった。

「西安コース」に参加出来ると知った瞬間から、私の頭にあったのはいつも兵馬俑坑と陝西省博物館のことだった。兵馬俑に関しては、幸いなことに市の図書館に立派な本があって以前から何度も借り出していた。異なった階層、人種の将兵達の多くが様々な角度から撮られており、解説も詳しいものだったお蔭で実際に対面した時も比較的冷静に接することができた。一方、博物館の内容については日中国交正常化を記念して行われた「中華人民共和国出土文物展」（1973 年）の時、上野で見たものがいくつかあると言うことしか分かっていなかった。まるでバラバラに考古学や写真を多く載せた歴史の本を探すしかなく、写真説明に「西安出土」とあってもどの博物館にあるかが不明なことが多かった。大抵の世界的な美術館、博物館ならば、各館ごとにその内容がまとめられた豪華な写真集があるというのに・・・。結局何処にどんなものがあるのかを知らないままにその時が来てしまったのだ。

前日まで雨だったとかですべてがしっとりとしており、考えていたよりずっと気温も低めな西安の朝だった。木々の美しい緑と鮮やかだが北京の赤とはまた違った深い紅の大きな柱。うすもやの中に建つ陝西省博物館はさすがに数千年の古都の歴史を内蔵するにふさわしい立派な建物であった。今でも目の中にはっきりと残してあるのでいつでも取り出して見ることができる。期待と不安のせいでひどく興奮していたが、門の中に入ると実に静寂そのもので、その為神経の高ぶりも一旦は静まった程である。成田に集合して以来のことを考えていた。何時も多数の人の中にいて同じ行動をし、何処でもあふれんばかりの人々とものすごい迫力のドラの音で歓迎されてきていたから。

中国滞在中にこれと同じ感じを持ったことが二度あったと気付く。最初は北京で宋慶齢基金会（女史の故居）を訪問した時であり、二度目がこの博物館だ。今になって考えてもこの様な機会はもうその後にはなかった。どちらも一歩門に入るや外とはまるで隔離された異質な世界があった。鮮やかな緑と水分をたっぷり含んだ空気（北京で湿気を感じたのはあの場所だけだったかも）、そして静けさ、そこにとどまっていた間は外の総てを忘れさせてくれるような不思議な時であった。（続く）

「湯」はスープ？

後藤　芳昭

中国語学習者にとって、「湯」は、いうまでもなくスープです。

では、日本語のお湯はなんと言うか？答えは、「开水」または、{热水} と教えられてきました。

先般８月の NHK カルチャーラジオ「漢詩を読む」で、下記の作品が取り上げられました。

南宋・楊万里の道旁店（道端の店）です。

lù páng yě diànliǎngsān jiā
路 旁 野 店 两 三 家
qīngxiǎowútāngkuàngyǒuchá
清 晓 无 汤 况 有 茶
——以下省略

そして、解説では、道端に質素な茶屋が二、三軒ならんでおり、朝早いので湯の用意はなく、まして茶などありはしない　と。

つまり、「汤」(湯の簡略字) は、スープではなくお湯の意味で使われています。

宋の時代の用法が日本に伝わり、お湯になって人口に膾炙したと考えられます。

念のため、中日大辞典で調べると、なんと、第一義に、湯、熱湯とあります。次に古くは、温泉、煮出し汁・煮汁、第四義になってはじめておつゆ・吸い物・スープと出てきます。

ついでに紹介すると、あと、煎じ薬、ぶつかる・触る、姓にも使われるとあります。

そうすると、お湯が第一義にあるなら、そのケースを今まで見た経験がない自らを浅学菲才とみるべきであると深く自省する次第となりました。

■9 月「漢詩の会」休講のお知らせ

毎月 1 回、植田渥雄先生に漢詩のお話を伺い、その詩の中国語の発音をご指導いただく「漢詩の会」、9 月は 18 日を予定しておりましたが、猛暑が続く中、先生のご都合により、9 月は休講とさせていただきます。

長岡花火大会に行って来ました

鈴木　千佳子

8 月 2 日、コロナ禍の影響で 3 年ぶりに開催された長岡大花火大会に行ってきました。長岡の花火大会は、昭和 20 年 8 月 1 日の長岡大空襲、平成 16 年 10 月 23 日の中越大地震で亡くなられた方々への鎮魂の思いを込めて打ち上げられます。

7 時過ぎから 2 時間余りの間、次々に打ち上げられる花火は圧倒される規模で、その美しさは息をのむようでした。時には、あまりの大きさに、火の粉が頭上に降ってくるように感じられるものもありました。特に、平原綾香さんのジュピターのメロディーに乗せて十数か所から次々と打ち上げられる、変化にとんだ美しい花火の数々は壮大で、胸に響き、思わず眼がしらが熱くなるものでした。

感染予防のために、場所を区切り人数を制限するために、敢えて有料にして開催したそうで、土手にシートを敷いてゆったりと見物でき、感激の夜でした。

土手で花火のっ開始を待つ人々

練馬中文教室主催

講演と中国語講座

■講演

①9 月 23 日(金・祝) 1 時半～3 時半
「来日 36 年～中日の架け橋となって」
講師：陳淑梅（NHK テレビ講座講師）
（会場は区役所会議室 20F）

■耳と口で楽しく学ぶ中国語講座

②9 月 24 日(土) 1 時半～ 3 時半
「挨拶用語で学ぶ初めての中国語」

③10 月 1 日(土) 3 時半～ 5 時半
「既習者のための発音矯正講座」
講師：鈴木繁
（練馬中文教室講師・元日中学院副学院長）

④10 月 2 日(日) 1 時半～ 3 時半
「目指そう、中国語で自己紹介」
講師：胡興智（日中学院専任講師・
ラジオ中国語ステップアップ講師）

■会　場：練馬区役所会議室
講座②③④は 19F　講演会のみ 20F
■参加費：各回 1000 円（学生：200 円）
※「わんりぃ」会員は半額
■主催：練馬中文教室　（要予約）
☎090―3509―2021

・➢・➢・➢・➢・➢

【中国の笑い話】

第 176 話　詩中に酒あり

漢詩を読むのが好きな人がいた。しかし彼は、李白の詩が出てくると、思わず本を伏せてしまい、目をしっかりと閉じて、息をするのもやめてしまうのだった。

そんな彼を見て友人が彼に訊いた。

「どうしてそうなるんですか？ 李白の詩は嫌いですか？」

すると彼は答えた。

「私は最近断酒したんですよ。李白の詩は酒気がプンプンしているので、彼の詩を読むと、体の中の酒の虫が疼いて、又、酒が飲みたくなるんで困るんです。なるべく詩の酒気を吸わないようにしているんですよ」

満柏画伯の講演と展覧会

日本中国国交正常化 50 周年記念事業

第 18 回日中水墨協会展
併催 国際芸術家展 yokohama2022

会期：10 月 12 日（水）～10 月 16 日（日）
開場時間：10：00～18：00 最終日は～15：00
会場：神奈川県民ホールギャラリー（入場無料）
横浜市中区山下町 3-1
交通：みなとみらい線「日本大通り駅」歩 6 分、市営バスは 8 系統・58 系統・20 系統・2 系統・109 系統「芸術劇場･NHK 前」下車 2 分、26 系統「大さん橋入口」下車 1 分

～～～～～～～～～～

特別無料講演会

中国水墨画の奥義―「気韻生動」とは何か

講師：満伯（アーティスト・美学研究家）
日時：10 月 13 日（木）9：30～11：30
場所：かなっくホール（定員 300 名要申込）
交通：JR 東神奈川駅・京浜急行東神奈川駅連絡橋「かなっくウオーク」で徒歩 1 分、又は東急東横線東白楽駅より徒歩 10 分

～～～～～～～～

主催･連絡先：日中水墨協会
国際芸術家展 yokohama2022
☎045-664-3789（まん）
携帯 080-5017-9518Mail：ncs.culture@gmail.com

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

名月を　とってくれろと
泣く子かな

小林 一茶

yù　lǎnzhōngqiū　yuè
欲 揽 中 秋 月

gěi　wǒ　xiǎo　kū　tóng
给 我 小 哭 童

【わんりぃの催し】
皆様のご参加を歓迎します

♬ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体の力を抜いて気持ちよく発声しよう！
声は健康のバロメーター！！
＊動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館　美術工芸室
- 日時：9 月 27 日（火）　10：00～11：30
  10 月 25 日(火)　10:00～11:30
- 講師：Emme［エメ］（歌手）
- 会費：1,500 円（講師謝礼・会場費）
- 定員：15 名（原則として）
- 申込：☎042-735-7187（鈴木）

～～～～～～～～～

❀❀ 中国語で読む 漢詩の会 ❀❀

残念ながら、9 月は休講と致します。

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館　視聴覚室
- 日時：**9 月 18 日（日）休　講**

植田先生のご健康上のご都合により休講となります。

10 月は 30 日（日）を用意していますが、先生のご健康状況に合わせて、後刻確定致します。

- 講師：植田渥雄先生
  桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500 円（会場費・講師謝礼）
- 定員：20 名（原則として）
- 申込：☎090-1425-0472（寺西）
  Email:ukiuki65jpjp@yahoo.co.jp
  （有為楠）

■9 月・10 定例会　代表宅

▼9 月　8 日（木）13：45～
▼10 月 6 日(木)13：45～

■ ‘わんりぃ’発送　三輪センター

▼ 10 月号　10 月 2 日（日）
▼ 11 月号　　未　定

☆☆編集後記☆☆

まだまだ暑い日が続きますが、朝夕に秋の気配を色濃く感じるようになりました。それもそのはず、立秋はとうの昔に過ぎ去り、暑さが収まると言われる「処暑」も 8 月 23 日から始まり、今は末候。9 月 8 日には次の候「白露」になります。「白露」になると空気も冷たくなり、大気中の水分が露を結ぶ頃と言われます。

そんな中、今年の中秋は 9 月 10 日です。概ね 30 日に一度は巡ってくる満月ですが、先人たちは早くから、空気が澄んだこの時節の月が一番美しいことを知って、月を鏡に見立てて、遠く離れたひとびとに思いを馳せたのです。通信手段の完備した現代のわれわれは、月を眺めながら遠い昔を懐かしみ、未来を思い描くタイムトンネルに見立てることも出来るでしょう。

～・～・～・～・～・～

‘わんりぃ’は、新入会をいつでも歓迎します
年会費：1800 円、入会金なし
郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりぃ
10 月以降の入会は、当年度会費 1000 円。
■問合せ：044-986-4195（寺西）

‘わんりぃ’276 号の主な目次

寺子屋･四字成語 （55)『殺鶏取卵』……2
「日译诗词」(25) 李白『蘇臺覧古』……3
「漢詩の会報告」(60) 杜牧『遣懐』……4
中国の歴史を彩る美人百花（14）周璇……6
「中原」雑感(24)河南省を回る友好提携都市……8
中国の面白い神話伝奇物語(17)『李娃伝』(下)……10
「秦皇島を御存知ですか」(17) ……12
「東西の峻厳な二人の革命家」(3) ……14
陝西省博物館見聞記（上）……16
みんなの広場……18
‘わんりぃ’の催し・お知らせ……20